

お客様各位

元氣通信

時流に乗る

こんにちは！サマーマルタンクの新洋技研工業です。弥生月に入り、桜の便りが待ち遠しくなってきました。「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉がありますが、早くポカポカの陽気になって欲しいなと思うこのごろです。このお便りがお手元に届く頃は、もう各地で桜が楽しめるでしょうか？

さて、ここ最近、ヘルシーブームに乗り野菜中心メニューのレストランに人気が出ていますね。またデパートのスイーツコーナーで産地にこだわった焼き芋が販売され、人気を博したりもしました。

現代病と言われる脳疾患や心疾患、ガンなどは、動物由来のタンパク質を過度に摂取したことにより発症の確率を高めている、とも言われているようです。もちろんストレス社会における心的圧迫も大きく影響を及ぼしているのでしょうか・・・。このような健康志向の流れからか「塩麹」や「甘酒」、それに麹を利用したスイーツなどが関心を集めています。ネット検索すると「塩麹」を使った料理のレシピが数多く登場します。麹の持つ必須アミノ酸や豊富なビタミンB群が云々という話はもうそこかしこのサイトで出ていますよね。

このような流行りは一時のこと・・・と言えそうですがもしれません。ですからそういったものに対して参入しないことも選択肢の一つだと思います。ただ、時代の流れと言うものは常では無い、移り変わるものがある、という観点からすれば、流れに乗るということもまた一つなのかな、と思います。決してそれは迎合するということではなく、時流をうまく利用し、業績を上げて「核」である事業を守り、発展させていく為に・・・です。

話は全く変わりますが、3月の始めに会社のすぐ近くの国道で信号待ちをしていて追突されてしまいました(汗) バックミラーを見て「マズイ！これはぶつけられる！」と身構えたので、大事に至らずに済みました(でも全治2週間・・・) 愛車は左後ろを結構ひどくやられて病院行き(泣) 今年は雪の関係で事故が多発しているとの話でしたが、こんな流行り？には乗りたくないものです！

日本の野鳥シリーズ

アオゲラって青くないの？

技術営業部 佐藤 弘

君はこの調査地アカハラ小屋の「座敷わらし」だ、と私がかからかう当時小学三年の豆鳥類学者は、初めて見る緑色のキツツキにこう言った。本種は雌雄ともに背面が若竹色で頭のとっぺんが鮮紅色だ。私に色彩の専門知識はないが、これは色相環の反対側に位置する補色、つまりよく目立ついわゆる反対色の組合せらしい。これといい勝負なのが、背面はルリ色で脇腹が橙色というこれもピッタリ反対色でキメたルリビタキの雄だ。共に自分の成熟ぶりを色の鮮やかさでアピールする作戦らしい。

スズメ目の脚指の向きは前3後ろ1だが、キツツキ目はミュビゲラを除き2対2だ。繁殖期には両脚と頑丈な尾羽との三点確保で枯れ木の幹に縦に止まり、嘴で幹を叩いてメッセージを送る。発信するのは縄張り宣言と「花嫁募集中」だ。内部に大きな空洞をもつ枯れ木は天然の打楽器となって、機関銃の連射のような乾いた音は驚くほど遠くまで響く。

キツツキ類の飛び方は「波状飛行」と呼ばれる。数回羽ばたきながら上昇し、頂点で翼をたたみ落下して加速する。その繰り返しだから飛行線は大きく波打つ。大多数の鳥の連続羽ばたきに比べると何ともズボラに見えるが、これは位置のエネルギーで落下し速度エネルギーで上昇する省エネ飛行術だから、横着者ときめつけるよりむしろ賢いと誉めたい。ヒヨドリやセキレイ類もこの飛び方をするが、上昇・下降の角度はちょっと骨太なキツツキ類が最も大きいから、遙か遠くを飛ぶゴマ粒大のシルエットでもキツツキの一種だと断定できる。

雌雄や年齢の判断基準にする為に本種を接写する際に、鳥を持つ人がうっかり手の甲を嘴で突かれた事があった。幸い、嘴が届くリーチの限界あたりで、かつ、突きに対して甲が浅い角度だったから、皮フを少し切られただけで大事には至らなかった。以降持ち方には気をつけ、小形種のタカやフクロウを扱う際に着用する皮手袋をはめて撮影している。

本種は日本固有種だから外国人鳥キチは珍しがるといふ。



“ちょっと一息”

No.4

生産部部长 山本知男

最近、若い人の活躍が目につきます。テレビでは愛菜ちゃん、福くんとか7歳の子供が大人顔負けで出てるし、ゴルフでは遼くん、野球はマーくん、佑ちゃん、バレエでは高校生の菅井円加さんが国際コンクールで優勝するし、ピアノでも盲目の辻井伸行さんがすばらしい演奏をして・・・と数え切れないほど若者の活躍が目立ってます。

若い内は吸収が早いし、夢中にのめり込むんだらうなって思います。私も学生の頃、クラリネットを始めましたが、練習が楽しくて楽しくてしょうがないって時期がありました。

学校の部活の他に一般バンドにも入って、そこがまた全日本大会にも出た所で、練習が半端じゃなく、盆・正月、学校の試験の時以外は休まずに、毎日合計4～5時間ほど練習していました。

なので、うまく成って行くのが自分で解るんですね。昨日出来なかった所が、今日は出来るって感じで・・・。まあ、練習は楽しかったのですが、その分いろいろと辛さもあり、それなりに苦しかったと言うところでしょうか。

またお説教染みだ話になりますが、「若い内の苦労は買ってでもやれ」と言う話を聞きます。若い内は「誰がそんな苦労なんかやるか」なんて思うんですが、苦労した経験って後で生きるもので、新たな苦労が出て、前のあんな苦しい事でも解決したんだから、何とかなる、やれば出来るって気になる。

出来ないで最初から諦めるんじゃないで、どうやったら良いか前向きに考える力になる。

そんな勇気が出るのも苦しみを乗り越えた経験があればこそ、じゃないでしょうか。

成功している若い人たちは、我々の想像出来ない位、苦しい練習を積んで、人知れず人の何倍も練習するから本番で自信溢れるパフォーマンスを出す事が出来る。

努力しないで格好良い事なんか出来ないでしょう。「苦労を買ってやる」と言うのは格好良過ぎですが、まずは逃げない。そこが大事な事だと思います。

私も最近ほとんど練習出来ないでいますが、それでも昔の貯金で若い人と一緒にやっています。この間も他のバンドの人と一緒に演奏する機会があって、隣りで吹いていた可愛い大学生さんから「きれいな透る音ですね。そんな音に憧れるんですけど、どんな練習してるんですか？」って聞かれて、まさか何にもしてないって言う訳にもいかず・・・、「ん～、長くやり続ける事と、酒を呑む事かな？」って、「えっ～、お酒呑むと上手くなるんですか？」「そうだよ、今度おじさんと呑む？」って言ってドン引きされました。ちょっと調子に乗ってしまったか・・・。

◆ ちょっと豆知識 ◆ その12

冒頭、申し上げておきますが、今回は「看板に偽りあり」と言いますか、「ちょっと豆知識」ではありません。本来、この欄でこのようなことが許されるのかどうか分かりかねますが、読者の皆様に対するアンケート、新規事業？に我々が取り組むべきかどうか、皆様からご意見をいただきたいと思いキーボードを叩きます。

私は以前清酒メーカーに勤めておりました。分析、品質管理、研究開発に携わっており、麴の酵素活性を測ることもしばしばありました。

前職の経歴を知る当社のお客様から、よく次のようなご相談をいただきます。

「成田君、有料で良いから麴の酵素力価測ってよ」

話を聞くと次の様なことのようにです。

モヤシ屋さんでもサービスの一環として、造った麴の酵素力価を測定はしてくれるそうなのですが、サンプルを送ってから結果が送られて来るまで結構な日数を要する。麴の造り方を変えて、それが酵素の力価、G/A等に与える影響を見て、「リアルタイムで」その是非を検討したいのに間に合わない。

かといって、分光光度計やウォーターバスを一式揃えるだけの余力も無いし、もっと言えばそんな高度な分析をこなせる技術者も居ない。

各地の指導機関にお願いしようにも、「それは当機関の業務にあらず」と断られる。実際私もそれは県の先生方の仕事ではないと思いますし。

その結果「ねえ、なりた君・・・」となるのだと思います。

残念ながら、当社に麴の酵素力価を分析するのに必要な機器は現状ありません。分光光度計を筆頭に、恒温水槽、ピペット類、試験管等、一式揃えれば100万円くらいは掛かるでしょう。10年償却で年間10万円のコスト。

キッコーマンの測定キットが、αアミラーゼ、糖化力とも120回測定用で定価が¥26,7千円だったと記憶しています。分析信頼性を確保するために、1検体2反復分析で、α・糖化力併せて試薬代だけで900円。プラス分析の手間賃となると、年間分析検体数にもよりますが、やはり1検体相当な金額になってしまおう。

ただ、幸か不幸か、皆さんが一番麴の分析結果を知りたい時期は、当社の閑散期。サンプルが届いてから三日後には、ファクスやメールで結果をお届けすることが出来るでしょう。

この仕事で儲けようとは思いません。いや、恐らく儲けられないでしょう(笑)。「顧客サービスの一環」として、我々はこの仕事に取り組むべきでしょうか？皆様からのご意見をお聞かせいただければと思います。

文責：技術営業部 課長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

新しいパソコンがやって来た

エッセイ

生産部主任 島貫 修一

2001年11月に買ったデスクトップを10年間も長々と使ってきた。2007年にVistaが出た時はまだXPで十分だ、2009年に7が出た時もまだまだ大丈夫と使い続けてきたが、寄る年波には勝てず(?)動作の遅れがひどくなってきた。起動してからインターネットができるまで最低30分かかるし、写真を圧縮するのもファイルに添付するのもたっぴりと待たされる。更に何もしていないのにソフトが勝手に動き出したりするので、こわれる前に7に買い替えることにした。そして某量販店(カメラの)に注文したノートパソコンと無線LANがやって来た。

箱から出して最初にインターネットの接続を始めたが、これにはいやな思い出がある。デスクトップの時はNTTから送られてきたCDがXPに対応していないという不手際で、手動で接続を設定するはめになってしまった。パソコン初心者なのに。そして今回も不吉な予感が当たり似たようなことが起きた。初めて無線LANを使うことにしたが、CDによる自動接続が何回やり直してもできず、やれやれまたかと思いつつ手動で設定した。呪われているのかな。しかしその後はデータの引越しもセキュリティソフトの再ダウンロードも順調に進んだし、7の操作も習うより慣れるでなんとか使っている。そしてデスクトップ時代の大きなブラウン管のモニター・パソコン本体・キーボードにケーブル・コード類が占領していた机に、ノートパソコンだけが置かれているのを見ると10年間の技術の進歩を感じてしまう。使っている本人は全然進歩していないんだけど。

このエッセイもノートパソコンで作りました。キーの配置が変わったので完成するまで何回もキーの打ち間違えをしたけど、次回作は間違えずにすらすらと文章が作れるでしょう。たぶん。